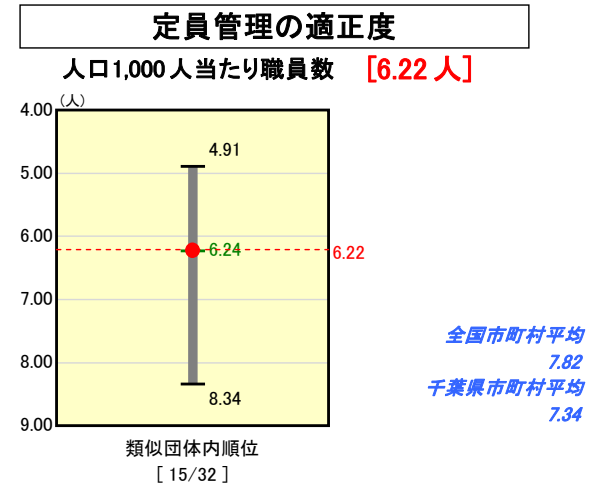
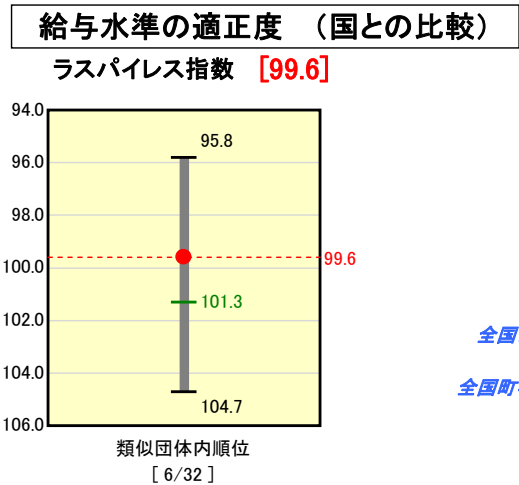
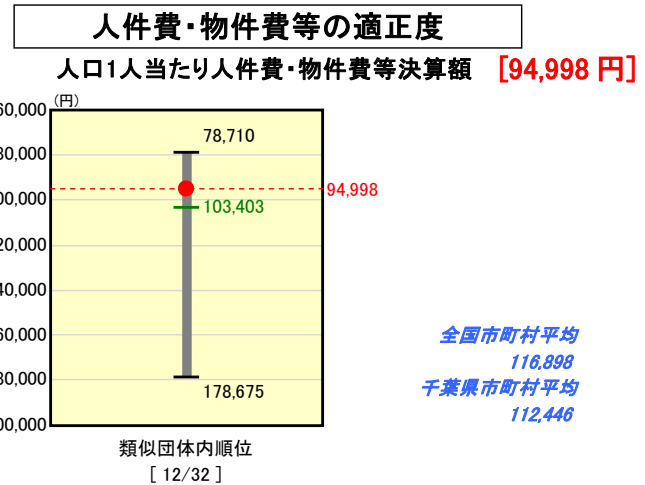
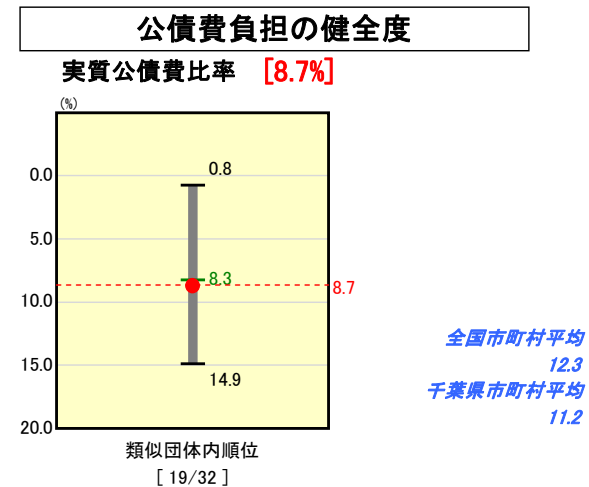
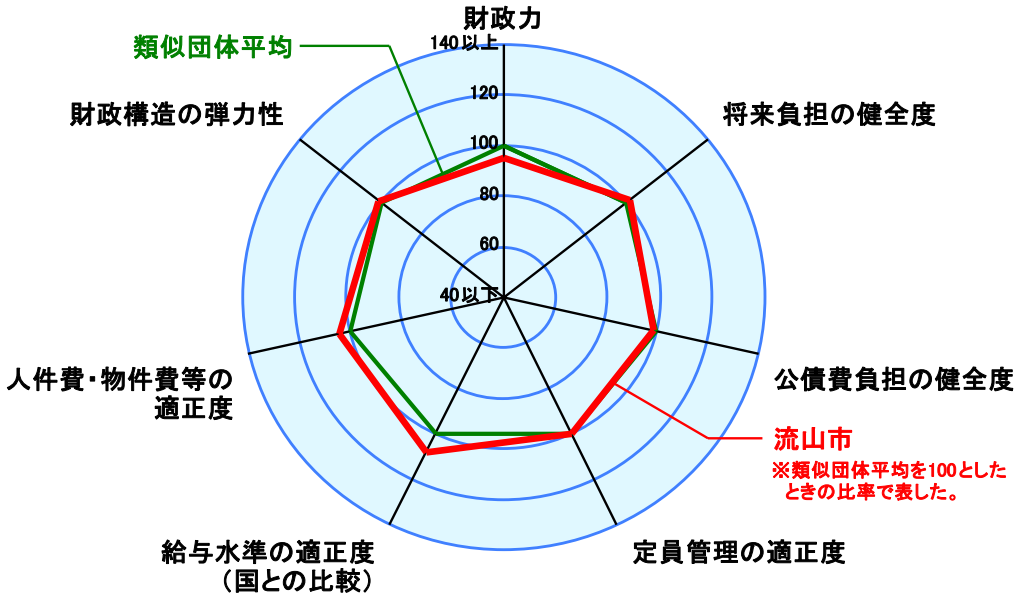
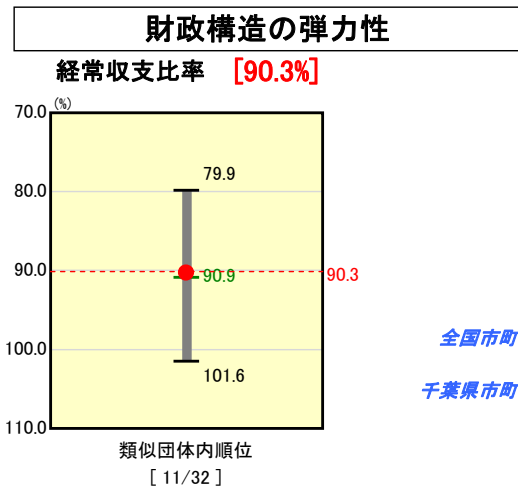
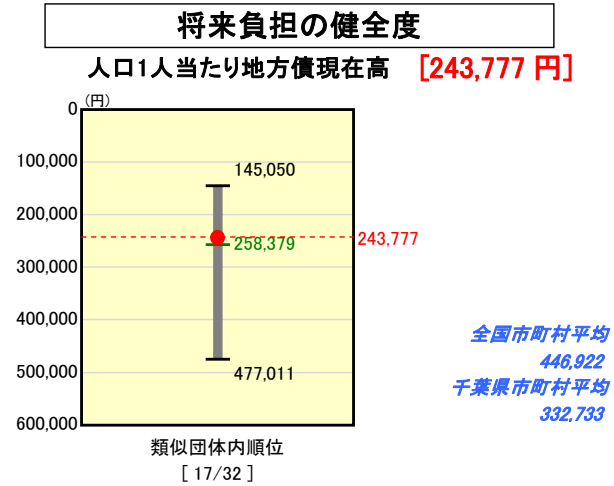
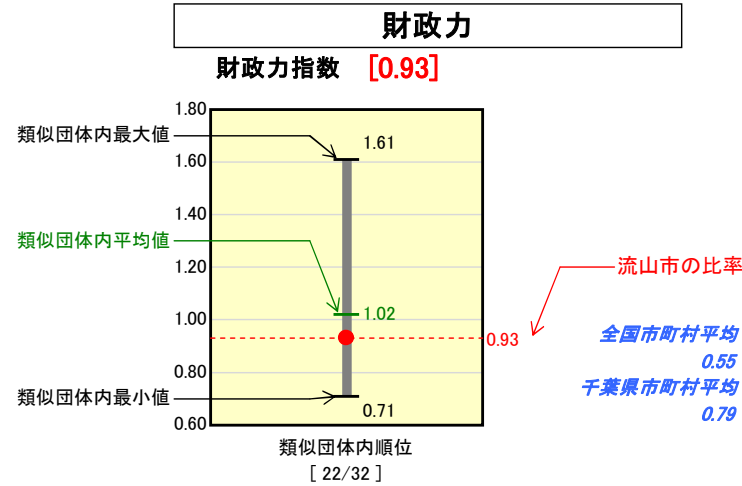


市町村財政比較分析表(平成19年度普通会計決算)

千葉県 流山市

人口	156,073 人(H20.3.31現在)
面積	35.28 km ²
歳入総額	36,752,390 千円
歳出総額	35,667,124 千円
実質収支	756,327 千円



※類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。
※平成20年4月1日以降の市町村合併により消滅した団体で実質公債費比率を算定していない団体については、グラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。
※ラスパイルズ指数及び人口1,000人当たり職員数については、平成19年地方公務員給与実態調査に基づくものである。なお、平成19年度中に市町村合併を行った団体については、当該項目に係るデータのグラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。

※人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

分析欄

財政力指数

この4年間で連続した伸びを見せており、0.93となっている。つくばエクスプレス沿線開発による市税増収と市税徴収率の向上への取組の成果(5年間で1.5ポイント向上)が要因として挙げられる。今後とも、市税の徴収確保に努め、財源確保を図っていく。

経常収支比率

人件費は0.4ポイントの削減を図ったが、扶助費が乳幼児医療費や保育所(園)運営費委託事業費の増加等により0.8ポイント、繰出金が下水道事業繰出基準の改正により2.1ポイント増加したことで、前年度に比べ2.2ポイント上昇した。今後とも事業の見直し等により経常経費の削減を図っていく。

人件費・物件費等の適正度 人口1人当たり人件費・物件費等決算額

退職者の不補充、昇格の抑制による人件費の削減により、人口1人当たりの決算額は、類似団体を下回っている。

将来負担の健全度 実質公債費比率

昨年に比べて3.9ポイントの減となった。財政健全化法により若干算出項目の算定方法が変更されたが、税収の伸びにより収入が増加したこと、算出上の償還に要した額が減少したことから比率が減少した。

将来負担の健全度 人口1人当たり地方債現在高

分母となる地方債残高総額は前年に比べ約5億円減少し、分子となる人口は約1,900人増加したことから、一人当たり地方債現在高は6,213円減少した。本市では、平成17年度から21年度までの5年間の地方債の発行総額をその前5年間(平成12年度から平成16年度)の発行総額(198億5千万円)の10%削減を目指している。

給与水準の適正度 (国との比較) ラスパイルズ指数分析

ラスパイルズ指数については、退職者の不補充、昇格の抑制により人件費の削減を図るなかで、平成18年度を上回った結果となったが、類似団体の平均を下回るなど給与の適正化を図っている。今後ともラスパイルズ指数の変動要因に注視しつつ、より一層の給与の適正化を図る。

定員管理の適正度 人口1,000人当たり職員数

アウトソーシングの推進により、類似団体と比較しても均衡が保たれている状況となっている。また、定員適正化計画においては、平成22年度までに職員数を140名の削減目標とし、アウトソーシング以外の対応策として、臨時職員、任期付職員、再任用等の活用を推進している。